

### 3. 福祉用具サービスの質の評価に向けたコード化の検討

#### 3-1. 実施概要

##### (1) 目的

福祉用具専門相談員の更なる資質向上を目指すにあたり、今後、福祉用具サービス計画、モニタリングシートに記録された内容を活用したサービスの質の評価を行い、利用者や家族の自立支援や介護負担軽減に資する福祉用具の提案が必要である。現在は自由記述が主となっている情報を整理・分類し、福祉用具サービス計画、モニタリングシートの記載方法を体系的に示すことで、福祉用具専門相談員が福祉用具サービス計画を作成する際の検討の視点として気づきを促すとともに、客観的な評価項目として活用することを目的に、コード化の検討を行った。

##### (2) コード化の対象

本調査では、福祉用具サービス計画（利用計画）にある「福祉用具利用目標」と「選定理由」を対象に検討を行った。

##### (3) 参考とした情報

以下を参考に記載すべき情報を整理・分類した。

図表 95 参考情報

参考情報	使用目的
福祉用具サービス計画、モニタリングシートの収集・分析結果 (2-3. 福祉用具サービス計画、モニタリングシートの収集・分析)	福祉用具専門相談員が実際に作成した福祉用具サービス計画（利用計画）の記載内容の実態を把握することで、記入者が選択しやすく、必要とする用語を把握する。
福祉用具サービス計画書作成ガイドライン (平成 26 年 3 月 全国福祉用具専門相談員協会)	福祉用具サービス計画（利用計画）の作成において、検討すべき視点や記載方法・内容として、適切な表現や過不足ない項目を作成する。
福祉用具サービス計画作成ガイドブック 第2版 (平成 30 年 6 月 全国福祉用具専門相談員協会)	

## 3-2. コード化の検討

### (1) 福祉用具利用目標

福祉用具利用目標は、介護支援専門員が作成するケアプランの目標を達成するために、「誰が」「何（具体的な福祉用具）を使って」、「どのような生活場面」での課題を解決できるようにするのかを具体的に記載する。福祉用具専門相談員は、自身が実施した利用者のアセスメント結果も踏まえた、具体的な目標を記載する項目であり、モニタリングにおいて評価しやすい具体的な目標を設定することが求められる。

福祉用具サービス計画の分析結果では、具体的な福祉用具の品目（手すり、ベッド、車いす、など）が頻出語の上位に挙がっており、かつ、共起ネットワーク図によると「自立支援」「負担軽減」「安心・安定」に大別できた。このような実態も踏まえ、ガイドラインで示されている記載のポイントに合わせ、記載内容をコード案としてまとめた。

実際の記載内容として「安心」「安全」の記載が多くあったが、客観的な評価が困難な表現であるため、コード案には含めていない。更に、福祉用具利用目標の期待される成果に「事故防止」があるが、モニタリング時の評価の視点として重要だが、すべての利用者に該当する目標（前提条件）であるため、コード化案には含めていない。

また、1つの福祉用具利用目標で複数の目的や生活場面、動作の解決に繋がることも考えられるため、分類ごとに複数のコードが選択されることも想定している。

#### 【分類ごとコード化検討の考え方】

##### 1) 目的

福祉用具を利用することで実現したい目標を示している。「自立支援」を目標として設定するケースが考えられるが、コード化にあたっては、自立支援のほか、「心身機能の維持・向上」や「生活に対する意欲の向上・生活の広がり」等に区分している。

図表 96 福祉用具利用目標（目的）コード案

	コード案
1	自立支援
2	介護負担軽減
3	心身機能の維持・向上
4	生活に対する意欲の向上・生活の広がり
5	社会参加の広がり
6	その他

## 2) 品目

具体的な福祉用具を記載するため、貸与の対象品目を示している（付属品は単品での提供は想定されないことから、本体と一体とする）。また、販売による福祉用具の提案も想定されることから「その他」のコードも用意している。

図表 97 福祉用具利用目標（品目）コード案

	コード案		コード案
1	車いす(付属品含む)	7	歩行器
2	特殊寝台(付属品含む)	8	歩行補助杖
3	床ずれ防止用具	9	認知症老人徘徊感知機器
4	体位変換器	10	移動用リフト
5	手すり	11	自動排泄処理装置
6	スロープ	12	その他

## 3) 生活場面

住環境において、福祉用具の使用が想定される場面を示している。また、自宅以外の場面での福祉用具使用も想定されるため、「通所サービス」も合わせて示している。

図表 98 福祉用具利用目標（生活場面）コード案

	コード案		コード案
1	玄関	6	敷居
2	寝室	7	廊下
3	浴室	8	通所サービス
4	トイレ	9	その他
5	居室		

#### 4) 動作

生活場面での具体的な動作を示している。ここで示した動作はアセスメントにて確認する動作（福祉用具サービス計画（基本情報））と同一である。

図表 99 福祉用具利用目標（動作）コード案

	コード案		コード案
1	寝返り	8	移動
2	起き上がり	9	排泄
3	立ち上がり	10	入浴
4	移乗	11	食事
5	座位	12	更衣
6	屋内歩行	13	意思の伝達
7	屋外歩行	14	その他

#### (2) 選定理由

選定理由は、福祉用具の機種や特性がどのように利用者の目標達成に繋がるのかを記載する項目である。福祉用具サービス計画の分析結果では、「移動」「歩行」「立ち上がり」「上げ」「起き上がる」などの動作や、「高い」「調整」「設置」「昇降」など品目ごとの機能に関する単語が頻出語の上位に挙がっていた。このような実態も踏まえ、ガイドラインで示されている記載のポイントに合わせ、記載内容をコード案としてまとめた。

#### 【分類ごとコード化検討の考え方】

##### 1) 用具種別

選定福祉用具に紐づくコードである。既に品目を記入する欄でコード化されている。

図表 100 選定理由（動作）コード案

	コード案		コード案
1	車いす(付属品含む)	7	歩行器
2	特殊寝台(付属品含む)	8	歩行補助杖
3	床ずれ防止用具	9	認知症老人徘徊感知機器
4	体位変換器	10	移動用リフト
5	手すり	11	自動排泄処理装置
6	スロープ	12	その他

## 2) 利用者の状態と環境の条件

利用している福祉用具が適切なものだったか、使用している福祉用具でどのような効果（利用者等の変化）があったかについて、モニタリング時に確認・評価を行う視点であり、モニタリングシートで示されている項目と整合させている。

図表 101 選定理由（利用者の状態と環境の条件）コード案

	コード案
1	心身機能、ADLとの適合
2	住環境との適合
3	生活環境との適合
4	介護環境との適合
5	生活に対する意欲の向上・意向との適合
6	その他

## 3) 選定された福祉用具の特長・機能

福祉用具の機能や特性が適切なものだったか、モニタリング時に確認・評価を行う視点であり、モニタリングシートで示されている項目と整合させている。

図表 102 選定理由（選定された福祉用具の特長・機能）コード案

	コード案
1	機能
2	大きさ、重さ、形状
3	その他

### 3-3. コード化検討のまとめ

- 福祉用具サービス計画の分析結果から、現状の記載内容（自由記述）のみでは、福祉用具サービス計画の分析を行うためのデータ収集・整理が困難であり、コード化により、以下の分析の可能性を示したところである（「2-3. 福祉用具サービス計画、モニタリングシートの収集・分析」参照）。
  - ・ 利用者の状態像の違いによる、利用者が解決したい課題・ニーズ・利用目標の設定の傾向
  - ・ 福祉用具利用目標の違いによる選定用具や選定理由の傾向
  - ・ 福祉用具利用目標と用具ごとの目標達成状況の把握
  
- この結果を踏まえ、今後、具体的なコードの作成・周知に向けて、まずは福祉用具サービス計画（利用計画）の「福祉用具利用目標」「選定理由」を対象に、コード案の検討を行った。
  
- 本調査においてまとめたコード案は、福祉用具サービス計画、モニタリングシートの分析結果とガイドライン等を参考に作成したものであり、福祉用具専門相談員が活用するにあたり、過不足のないコード案となっているか、実際の場面で適切なコードを選択することができるかなど、現場で問題なく活用できるものかの検証には至っていないため、引き続き検討及び調査が必要である。
  
- また、モニタリングシートの分析結果としても、状態変化の有無のみの選択肢となっており、利用者の身体状況やADL等の評価には至らないため、福祉用具サービス計画のコード案の検討とともに、モニタリング時にどのような記録をすることで、目標達成状況等の評価ができるか等も検討し、様式の見直し等の対応を行うことが必要である。